

FY2019 Annual Report for International Joint Research with Research Fund
International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture (ARC-iJAC),
Art Research Center, Ritsumeikan University

Date (year/mm/dd): 2019-4-27

1. Title of the Research Project	
Fundamental research for digital reproduction of Kabuki in Genroku era	
2. Research Leader	
Name	Organization and title
Masami IWAI	Professor, Meijo University
3. Co-researcher (Total: 3 persons)	
Name	Organization and title
Bunzo TORIGOE	Honorary Professor, Waseda University
Eri SATO	Honorary Professor, University of Kochi
Harumi HIGASHI	Lecturer, Gunma Prefectural Women's University

4. Overview of the Research Project (About 150 words) Note: If you have changed your project since the time of application submission, please write clearly where you made changes.
<p>歌舞伎は、京都が発祥の地である。その歴史を辿ると、元禄歌舞伎時代があり、世界の演劇全体に比べても、最も洗練された演劇が京都を中心として展開していたことに気づかされる。しかし、元禄歌舞伎には、映像はもちろんのこと、台本もほとんど存在しない。ただし周辺資料は数多く残されており、これらを有機的につなぎ合わせれば、当時の演劇の実態を再構築することが可能である。従来、それらの資料は単なる資料群として個別に扱われることがほとんどであったが、デジタル・アーカイブの上に構築する有機的な資料群は、いわば三次元の世界を再現することが可能である。</p> <p>対象となる資料は、絵入狂言本、役者評判記、あるいは歌舞伎番付である。なかでも、絵入狂言本(歌舞伎の絵入筋書き本・台本に近いものもある)は舞台を表現した絵画とともに、筋書、出演者の配役などが詳細に記載される一級資料である。</p> <p>2018年度においては、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了した。2019年度はこれを承けて、網羅的なデジタル・アーカイブ型研究を推し進め、そこに含まれる絵画表現とテキスト表現から立体的に情報を抽出して、元禄期の演劇舞台では何が行われていたかを可視化する。</p>
5. Overview of the Research Results Note: We may use this section for the Center's PR.
<p>2018年度の成果として、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了した。</p> <p>2019年度は2018年度の成果を承けて、各所蔵機関の書誌調査を進めた(「6-1. 研究成果の詳細」参照)。さらに、これをふまえた上で ARC「絵入狂言本データベース」にその画像をアップロードする作業を行った。同データベースは、国文学研究資料館「新日本古典籍総合データベース」、国立国会図書館「デジタルコレクション」、東京大学霞亭文庫の画像データベース、および東京藝術大学附属図書館のデータベース(現在アップデート中)等、公開された機関の画像データベースにリンクが張られている。また、画像をネット上に公開して</p>

いない機関についても、内部閲覧用に画像を閲覧できる仕組みにしている。これまで異なる機関に所蔵される同一題名の狂言本を並べて対比することは困難であったが、このデータベースによって PC やタブレット上で並べて閲覧することができるようになった。

また、新出・未見の絵入狂言本についても閲覧と書誌調査を行うことができた。

6. Research Activities

(1) Books

(2) Articles

・『『傾城枕軍談』と『義経千本桜』』、単著、2020年3月、名城大学外国語学部・『Journal of Faculty of Foreign Studies, Meijo University』第3号、その他著者名、171-180頁、査読有

(3) Presentations

(4) Symposiums and/or research meeting you organized

(5) Other research activities (Lectures to the general public, and appearances in/contributions to mass media)

(6) Academic awards

(7) Grants-in-Aid for Scientific Research -KAKENHI

・「壁を壊す—国際的な日本演劇研究のための拠点の構築」、基盤研究◎、2017年4月—2019年3月、役割(代表)

(8) Competitive grants other than KAKENHI

(9) Other achievements